

ふりがな 氏名	いかみ みさ 伊神 美早	職名	講師
取得学位	博士(看護学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ		
所属学会	日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
基礎看護技術に対する理解を深めるため、シミュレーションを用いた授業を実施(中部大学)	平成 30 年から令和 5 年 3 月	基礎看護学での技術科目①生活援助技術実習、②治療支援技術実習、③看護アセスメント実習において、シミュレーターモデルを用いた体験学習を取り入れた。学内実習終了後には学生が作成した学内実習計画書の添削を行い、根拠の明確化を図った。実習の振り返りには必ずコメントし、次回学内実習への課題に気付けるよう促した。技術チェックでは学内実習の運営形態や、学生の技術習得状況を見ながら、評価表項目や評価基準の見直しを行った。令和 2 年度から Covid-19 への感染予防対策として、少人数で学内実習を行った。教員が担当する学生数も少人数とし、個別指導を充実させることで全員が技術習得できるよう配慮した。
基礎看護技術に対する理解を深めるため、動画を用いた授業を実施(中部大学)	平成 30 年から令和 5 年 3 月	学内実習室の設備・物品を用いた動画を作成し、手技・手順が理解できるように努めた。また、各単元での学内実習項目についてそれぞれの学内実習計画書を作成した。講義内では、作成した動画・学内実習計画書を用いて各技術の留意点や根拠を説明し、これらの教材を活用して授業時間外にも学生が予習・復習できるように工夫した。
小テストを指標にした教育の実践(中部大学)	平成 30 年から令和 5 年 3 月	講義開始時に小テストを実施し、前回講義での学習内容の定着を評価した。小テストの結果を学生にフィードバックし、学習の補足・強化を心がけた。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論文	Self-Assessment of the Interpersonal Relationship Scale 日 本版(SAIRS-J)の作成	共	令和2年5 月	日本看護医療学会雑誌 22 巻	伊神美早、篠崎恵美子 p.47-54
	患者－看護学生関係自己評価尺 度の作成と信頼性・妥当性の検討	共	令和2年7月	日本ヒューマンヘルスケ ア学会誌第5巻2号,	伊神美早、篠崎恵美子 p.45-56
学会発表	Scale development on nursing student-patient relationships: a literature review from 1999 to 2018	共	平成31年1 月	22nd East Asian Forum of NursingScholars (EAFONS) 2019,Singapore, 22nd EAFONS2019:	伊神美早、篠崎恵美子 Abstrac,55.
	患者－看護学生関係に影響を及 ぼす要因の検討	共	令和2年 9月	日本看護研究学会第46 回学術集会(Web)	伊神美早、篠崎恵美子